

国際標準化に関する状況整理

平成28年7月21日

国際標準に関する状況整理について

- 標準仕様(案)を標準化できるかどうかは、標準を積み重ねていくことが重要(第1回WG会議議論より)
- 標準仕様Ver.1.0を策定し実証を積み上げることを重視
- 国際標準化をめぐる状況を把握

国際標準化に関する状況整理

標準化の目的

GPS等の衛星測位が使用できない屋内外空間において、無線LAN等の各種タグ情報を共通的に利用するためのパブリックタグ登録仕様を規格化することにより技術の普及、安全・安心の確保、産業競争力の強化、競争環境の整備。

標準化の対象領域

- ①パブリックタグの登録仕様
 - ・パブリックタグの種別、個別ID、位置情報の精度評価及び信頼度等
- ②オープンデータAPI
 - ・位置情報基盤として共有するパブリックタグ情報のAPIによる提供

※) 場所情報コードについては類似するオランダ新規提案の「The Map Code Standard」がISO/ TC211の既存の範囲に適合しないとの理由で却下されていることから検討対象としない。

基本的な方針

- ・位置情報サービスとの関連性が高いISO/ TC211(地理情報)の枠組において国際標準化における動向を注視する。
- ・国際標準における独自の新規提案は、何れの枠組みにおいても継続的な積み重ねであったり、組織的なリソースや採択されるまでの期間が課題となることから、既存の枠組を活用した関係機関からの情報収集に努める。